

# カット野菜工場運営を通じた農家所得向上の実現

三重中央農協(三重県)

## 取組の背景

- 三重中央農協管内では、水稻の裏作にキャベツなどの冬野菜の栽培が盛んに行われている。
- 野菜は需給状況により価格が大きく変動することから、市場出荷が大半である農産物を加工して付加価値を高めて販売し、農業者の経営の安定と収益確保を図ることを目的として、平成18年に、農協自らが野菜の仕入から製造・販売まで行うカット野菜工場「ベジマルファクトリー」を建設。



## 取組の概要

- 買取価格をシーズン前に設定し、契約価格による取引ができることから、農家は計画的な生産や安定価格での取引を行うことができる。
- 管内の生産グループからキャベツ、ハクサイ、ダイコン等7品目を仕入れており、管内産の端境期に三重県産をはじめとした管外から仕入れ、工場を周年で稼働させている(約40品目以上の野菜を取扱い。)
- 加工用野菜は、通いの大型の鉄製コンテナを使うことにより、収穫・調整作業の省力化、出荷資材のコスト削減など作業効率が向上。
- 一般家庭用、業務用のほか肉類、魚介類を加えて付加価値を高めたカップサラダを商品化し、東海地方を中心に関西地方のスーパーマーケット等に販売。

## 成果

項目	平成23年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取扱量(トン)	3,367	4,173	3,774	3,844	3,639
うち管内取扱量(トン)	781	1,374	977	1,445	1,573
販売高(百万円)	721	1,231	1,187	1,124	1,060
生産者数(人)	61	79	76	81	77
出荷契約面積(a)	1,738	3,619	3,280	3,822	4,687

- 平成23年度に部会組織「ベジマルファクトリー生産者グループ」を立ち上げ、平成26年度よりグループ会員に対し、出荷量に応じた追加払いを行うことなどにより、令和元年度には生産者も16名増加(平成23年度比)。
- 契約農家は、生食用出荷が不向きなものでも、加工用野菜で出荷ができたり、段ボール箱を使わず鉄製コンテナにより出荷することで、出荷調整等の作業手間が減り、生産規模を拡大。また、契約栽培による安定した価格での取引により、農業所得が向上。
- 120人あまりのパートを採用することにより地域の雇用拡大に貢献。